

## オリンピックと東京文化資源区

東京大学 教授

吉見 俊哉

半世紀前、日本初のオリンピックに際し、多くの日本人は、バレーボールの「東洋の魔女」からマラソンの「円谷」まで、2週間のドラマに熱狂した。それは成功体験として人々の記憶に残り、その後も何度も想起され続けた。だが、熱狂には落とし穴がある。半世紀前の熱狂のなかで、私たちは都市・東京のかけがえない価値と資産を失った。

当時、五輪開催を控えた東京にとって、最大の難題は交通問題だった。とりわけ羽田空港と競技場をつなぐ交通の高速化は至上命題とされ、首都高速が最優先で建設された。強調されたのは自動車社会への対応であった。オリンピックがスピードの争いであるのと同様、開催都市は高速道や高速鉄道で結ばなければならない。路面電車を廃絶し、歩道を縮小し、車がハイスピードで行き来できる都市こそ「理想の都市」とされたのである。

やがて運河や川の上に高速道路が建設され、鉄道も高架となった。その結果、日本橋など多くの江戸以来の景観が破壊され、古い町は分断された。さらに高架化・高速化する東京に対応して大規模再開発が続き、西新宿や虎の門、六本木などが高層化していった。

こうして1964年の東京五輪は、東京の重心を、日本橋・神田以北から六本木や新宿・代々木などに南下させた。南下は東京の高速化、大規模化に対応した動きだった。他方、東京五輪を境に周縁化されていく都心北部は、かつて細い道が縦横に広がる「歩ける」町々として、東京文化のエッセンスを担っていた。若き森鷗外をはじめ、明治の文人たちは、本郷から上野、湯島、秋葉原や神保町までをほぼ毎日のように散歩していた。

2020年、5年後の東京五輪のテーマは「レガシー＝継承」だという。このテーマはおのずから過去半世紀に東京が歩んできた道への反省を迫る。高速化、大規模化する東京の先にあるのは巨大な荒廃かもしれない。国全体が人口減少に悩む中で、東京だけがメガ級のオリンピック都市となる

ことに、私たちはもう希望を持ってない。甘い未来予測で巨大施設を建てるのは、次世代に負いきれない負債を残す。半世紀前の東京五輪がいかにも感動的であったとしても、5年後に求められているのは全く異なる都市の価値なのだ。

そうした意味で、2020年以降の東京にとっての試金石は、六本木や青山・原宿のような都心南でも、湾岸地域でもなく、上野、本郷、湯島、神保町、秋葉原といった都心北地域である。実際、この地域には、過去数百年にわたって蓄積された文化資源の多くが集中している。日本最大の博物館・美術館の集中地区の上野、学術の拠点・東大を中心とした本郷、町家が連なり、路地と長屋、寺院を楽しむ外国人観光客に人気の谷根千、湯島聖堂から神田明神、湯島天神までを軸線とする宗教と料亭の街・湯島、かつて魯迅、周恩来といった近代中国指導者たちも親しんだ出版と私大の街・神保町、そして電気街に加えてアニメ・ゲーム文化の拠点として世界的に知られる秋葉原。これらの実に多様な文化・芸術・学術の世界的拠点が、わずか半径約2kmの徒歩圏に密集しているのである。

これらの地域を、私たちは「東京文化資源区」と呼んでいる。現在、この地域では様々な新しい動きが生じている。谷根千では地道な地域活動が重ねられてきており、その蓄積の上に新しい構想づくりが始まっている。上野公園の博物館、美術館、大学は、連携して「文化の杜」構想の検討を進めている。東京大学では、本郷通りに向けていた顔を、少しずつ上野・不忍池側にも開いていく検討が始まっている。神保町では、地元書店を中心とした力強い地域組織が活性化に向けた検討を進めている。湯島から秋葉原にかけての一带では、アーツ千代田3331をはじめ、新しい拠点施設の活動が活発化している。

これらの動きのキーワードは、「つながり」である。インターネットを基盤に情報ネットワークが高度に発達・普及し、それらが携帯端末のGPSと結びつくなかで、都市で

の人々の行動パターンが劇的に変化している。それは、有名な施設の周囲に人々が集合するパターンから、ネット情報とGPS機能を頼りに各人が自分で地点と地点を結んで移動していくパターンへの変化である。その先にあるのは、大規模施設を再開発するのではなく、きわめて多くの魅力的なポイントの間に「つながり」を形成し、それらの無数の線が結びついた「まとまり」として、21世紀の東京を創造していく可能性の拡大である。

まさにこうした文化的ポテンシャルを、都心北ほど集中

させている地域はない。そこに照準した東京文化資源区は、上野（芸術）、谷根千（地域文化）、本郷（学術）、湯島（宗教）、神保町（出版）、秋葉原（ポップカルチャー）をつなぎ、この地区で誰もが楽しく歩き回り、滞在し、住めるようにしていくことで、東京の価値を、大規模化、高速化、画一化といった先にはではなく、中小規模のリノベーションを積み重ね、低速の地域間交通を整え、文化的多様性を生かしていくことの先に創造する試みなのである。

**NEWS for Cultural Economics** .....

2015年  
7月4・5日  
(土・日)

**2015年度研究大会（東京）のご案内**

**大会テーマは「文化の社会的な意義と役割  
－東京五輪 2020 への展望－」**

2015年度研究大会の概要が決まりましたのでご案内いたします。2015年7月4日（土）、5日（日）の2日間にわたり、東京都世田谷区にある駒澤大学駒沢キャンパスにて開催いたします。

■日程：2015年7月3日（金）・4日（土）・5日（日） ※3日はエクスカージョン

◎7月3日（金）（渋谷、三軒茶屋）

13:00～17:00	エクスカージョン1 渋谷コース ◆Shibuya Creative Space
15:00～19:30	エクスカージョン2 三軒茶屋コース ◆三軒茶屋周辺クリエイティブ・ツアー

◎7月4日（土）会場：駒澤大学駒沢キャンパス1号館

9:00～	受付開始（1号館2階フロア）
10:00～11:45	分科会①
	①-A アートプロジェクト（1202教室）
	①-B クリエイティブ産業（1203教室）
	①-C 観光（1403教室）
11:45～13:00	①-D 教育・アウトリーチ（1404教室）
	昼食、理事会（11:50-12:50）
(12:15～12:45)	(希望者のみ 駒澤大学禅文化博物館ツアー)

<p>13:00～15:00 ※両セッションは 並行して開催さ れます</p>	<p><b>特別セッション1</b>  <b>「文化政策研究の最前線：経済学の視点から」</b> (1202 教室)      司会：後藤和子氏 (摂南大学経済学部教授)      発表者：田中鮎夢氏 (摂南大学経済学部講師)                阪本崇氏 (京都橘大学現代ビジネス学部教授)                後藤和子氏      コメンテーター：山田太門氏 (慶應義塾大学名誉教授)      参考資料：デイヴィッド・スロスビー 著 (2014)                『文化政策の経済学』 ミネルヴァ書房                (原著 <i>The Economics of Cultural Policy</i>, Cambridge University                Press, 2010.)</p> <hr/> <p><b>特別セッション2</b>  <b>「社会学分野における文化研究の動向：</b>                <b>社会学とカルチュラルスタディーズの観点から」</b> (1203 教室)      司会：友岡邦之氏 (高崎経済大学地域政策学部教授)                増淵敏之氏 (法政大学大学院政策創造研究科教授)      発表者：油井清光氏 (神戸大学大学院人文学研究科教授)                吉見俊哉氏 (東京大学教授)      コメンテーター：片岡えみ氏 (駒澤大学文学部教授)</p>
<p>15:15～17:30</p>	<p><b>シンポジウム 「五輪文化プログラムの社会的な意義と役割</b>                <b>-ロンドン 2012 の実績と東京 2020 への展望」</b> (1301 教室)      基調講演「2012 年ロンドン五輪・文化プログラムの                社会的インパクトとレガシー」(仮題)                Ms. Deborah Bull, CBE (Director, Culture at King's College London)      パネル・ディスカッション「2020 年東京五輪文化プログラムへの期待と展望」                パネリスト：真田久氏 (筑波大学体育専門学群学群長／東京のオリンピック・パ                ラリンピック教育を考える有識者会議委員長)                日比野克彦氏 (アーティスト／東京芸術文化評議会評議員)                毛利嘉孝氏 (東京藝術大学准教授)                Ms. Deborah Bull, CBE                モデレーター：吉本光宏氏 (ニッセイ基礎研究所研究理事／東京芸術文化評議会                評議員)      ※同時通訳が行われます      ※シンポジウムは、アーツカウンシル東京、ブリティッシュ・カウンシルとの共催です</p>
<p>17:30～18:00</p>	<p>移動</p>
<p>18:00～20:00</p>	<p>懇親会 (会場：駒澤大学深沢キャンパス大ホール)</p>

◎7月5日(日)会場：駒澤大学駒沢キャンパス8号館

9:00～	受付開始(8号館1階フロア)
10:00～11:45	分科会②
	②-A 文化需要の実証分析(8151教室)
	②-B 建築・デザイン(8152教室)
	②-C 文化支援(8251教室) ②-D 人材育成と地域活性化(8252教室)
11:50～12:30	総会(8150教室)
12:30～13:30	昼食
13:30～15:15	分科会③
	③-A 文化経済学における新たなアプローチ(8151教室)
	③-B まちづくり(1)(8152教室)
	③-C 伝統文化・芸能(8251教室) ③-D パフォーミングアーツ(8252教室)
15:30～17:50 ※④-C、④-D は17:15終了	分科会④
	④-A: アジアの文化政策(8151教室)
	④-B: まちづくり(2)(8152教室)
	④-C: 文化政策(8251教室) ④-D: 理論・思想(8252教室)

■会場

駒澤大学(駒沢キャンパス) 1号館(4日)・8号館(5日)

会場は、全部で3カ所あります。懇親会を除いてすべて駒澤大学駒沢キャンパスで行われますが、大学の都合で、1日目と2日目の会場が異なります。初日が1号館で、2日目は8号館です。また、懇親会は、駒沢キャンパスから歩いて6・7分のところにある深沢キャンパスで行われます。

■宿泊等について

宿泊につきましては、特にこちらからご案内をしておりません。多少アドバイスをさせていただきますと、東急田園都市線・東京メトロ半蔵門線・東武線沿いは、1本で繋がっているので会場までの交通が便利です。また、渋谷乗換で近いところもよろしいかと思います。

■駒澤大学(駒沢キャンパス)へのアクセス

駒澤大学は、東急田園都市線駒沢大学駅下車で、徒歩10分のところにあります。なお、4日の土曜日は駒澤大学会館246横からショートカットして大学構内に入れますが、5日(日)は正門からのみの入・退場となりますのでご注意ください。

[http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/campus/c\\_komazawa/](http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/campus/c_komazawa/)

また、交通機関の利用に際しては以下の乗換案内を参照ください。

<http://www.jorudan.co.jp/>

■参加費等

・参加費

事前申し込み 会員2,000円、非会員4,000円、  
学部生2,000円(学生証をお持ち下さい)

当日受付 会員3,000円、非会員5,000円、  
学部生2,000円(学生証をお持ち下さい)

※特別セッション・シンポジウムのみ参加の場合は無料(非会員)

※前年度年会費未納の会員は、事前申し込みは不可。当日受付のみで参加費は4,000円

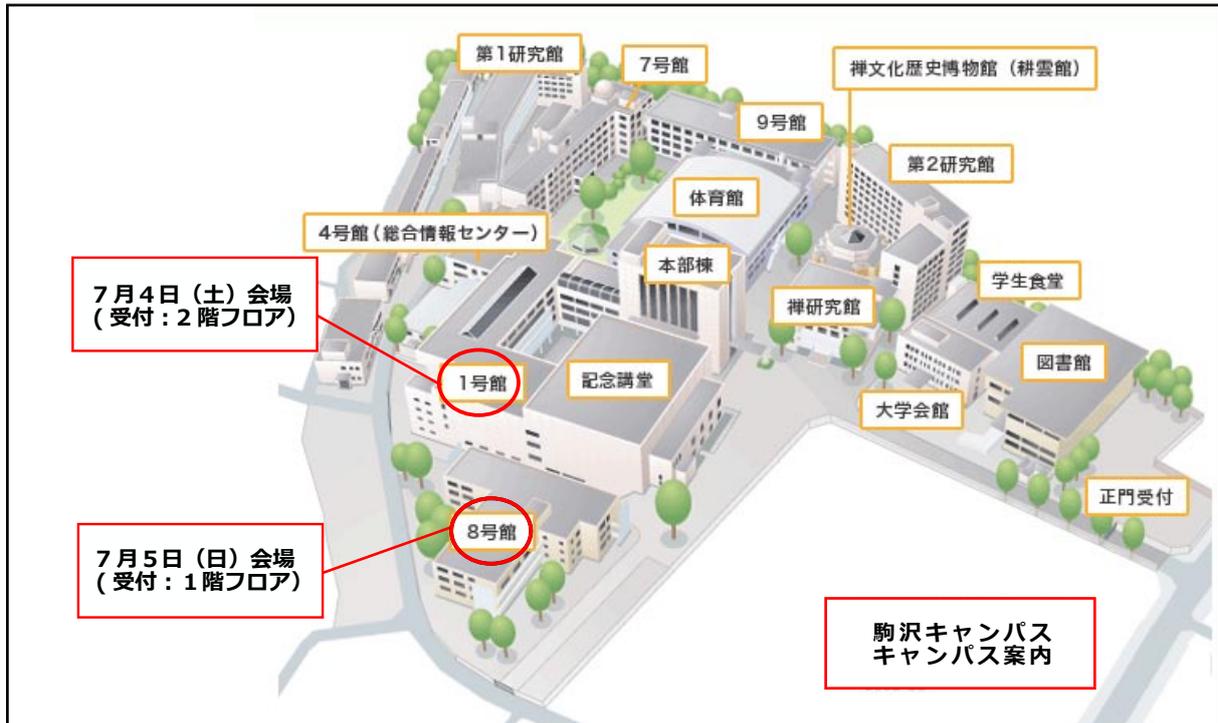
・懇親会費 5,000円(駒澤大学深沢キャンパス大ホール)

[http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/campus/c\\_fukazawa/](http://www.komazawa-u.ac.jp/cms/campus/c_fukazawa/)

・大会昼食ならびに昼食弁当

昼食弁当 1,000円(7/5(日)のみ)／お茶付 事前申し込みが必要です)

7月4日(土)につきましては、駒沢キャンパス内の学生食堂(1階・2階)ならびに学食横のセブン・イレブンを利用することができます。また、駒沢近辺の昼食可能な場所については学会当日に簡単な資料を皆様に配布する予定です。そちらもご参照ください。



- ・参加費、懇親会費、昼食弁当代は別途郵送した案内に同封している郵便振替の払込用紙にてご送金ください。
- ・エクスカージョンは事前申込みが必要となります（以下をご参照下さい）。参加費は現地でお支払い下さい。

#### ■エクスカージョン

会場の駒澤大学周辺は、意外に創造産業に関する施設が集まっています。今回は、その中で有名な渋谷と、高級住宅地のイメージの世田谷区の中にあって、下北沢と並んで著名な三軒茶屋の2カ所を取り上げますので、この機会にぜひ最近の動向を肌で感じてみてください。

#### エクスカージョン1：Shibuya Creative Space

概要：文化と産業がクリエイティブに生まれる場所を巡る  
 渋谷およびその周辺は、この数十年間にわたり、さまざまな創造性が生まれ、それをもとに新たな文化や産業を生み出す地域となっています。これらの場所は、人々の才能・アイデア・エネルギーを結びつける様々な工夫がなされており、ポピュラーカルチャーを代表とする新たな創造性を土壌に、日本のクリエイティブ産業を生み出す土台となっているといっても過言ではありません。また、日本のクリエイティブ産業を牽引する大小の企業

ないしは組織が拠点とするのも、このような場所の点在する渋谷とその周辺地域の特徴です。この企画では、渋谷および周辺地域である原宿界隈に点在する創造的な場所を回ること、「文化経済」が生まれる最前線を探訪します。

コーディネーター：岡田智博会員（駒澤大学）

・参加費＝東京メトロの電車料金を各自移動の際にお支払いください（明治神宮前原宿－渋谷 170円）。

【タイムテーブル】調整により順番・訪問先の変更もあります

2015年7月3日（金）

13:00：集合 「ラフォーレ原宿前」

東京メトロ副都心線「明治神宮前原宿」駅下車

13:10-13:40：もしもしBOX

（移動 東京メトロ「副都心線」＋徒歩）

14:00-14:30：dot by dot inc

（移動 徒歩）

14:40-15:30：ヒカリエ

（移動 徒歩）

15:50-16:10：Co-Lab 渋谷

（移動 徒歩）

16:30-17:00：NHK 放送センター

17:00：解散

【訪問施設】 一部訪問先調整中です。

1. もしもし BOX

(<http://moshimoshi-nippon.jp/jp/box.html>)

ポップカルチャー企業による外国人インバウンド向け  
原宿案内所

2. dot by dot (<http://dotby.jp/>)

メディアアート技術を用いた仮想現実／拡張現実感の  
コンテンツをつくるクリエイティブスタジオ

3. Co-Lab 渋谷アトリエ

([http://co-lab.jp/locations/shibuya-atelier/news\\_shibuya-atelier](http://co-lab.jp/locations/shibuya-atelier/news_shibuya-atelier))

民間ベンチャーによるクリエイティブ産業ワーキング  
施設

4. ヒカリエ 東急による文化とライフスタイル、オフィ  
スの複合施設

① ヒカリエ 8

(<http://www.hikarie8.com/>)

アートや全国地域資源発信の複合施設

② シアターオーブ

ヒカリエの主劇場

5. NHK (8K 体験、スタジオパーク)

(<http://www.nhk.or.jp/studiopark/exhibition/shv.html>)

NHK の最新のコンテンツ技術についての見学

**エクスカーション 2: 三軒茶屋周辺クリエイティブ・ツアー**

概要：文化と産業がクリエイティブに生まれる場所を巡る

世田谷は落ち着いた住宅地という印象が強いのですが、  
なかにもクリエイティブ産業を支える様々な文化的装置  
が点在しています。従来は学生がポップカルチャーの萌  
芽を先導してきましたが、それと並行して産業サイドの  
動きも活発に行われていった地域です。現在では撤退し  
たところも多いのですが、国道 246 号線沿線はレコーディ  
ングスタジオのメッカであった頃もあります。しかし今  
回は新たな動きに注目して、巡検及び見学を実施します。  
とくにリノベーション施設を中心に回り、東京の都心部  
とは違った点を見出すことができれば幸いです。

コーディネーター：増淵敏之会員（法政大学）

・参加費＝電車料金を各自移動の際にお支払いください  
(東急世田谷線、144 円)。

【タイムテーブル】

2015 年 7 月 3 日 (金)

15:00：集合 東急田園都市線、三軒茶屋駅 改札口

15:15：世田谷ものづくり学校

16:15：移動、東京世田谷線

16:40：下高井戸駅

17:00：G-ROKS 下高井戸スタジオ

18:00：下高井戸散策 (希望者のみ)

19:30：解散

【訪問施設】 現在調整中 (変更することもあり)

1. 「世田谷クリエイターものづくり学校」：インキュー  
ションの先駆的存在

2. G-ROKS：旧 KORG 本社ビルをリノベーションした音楽  
スタジオ

3. 下高井戸散策：「ミルクホール」で氷水、「トニーノ」  
でイタリアン等を考えています

●申込方法：大会参加のオンラインもしくは FAX での申  
込みと同時に、ご希望のコース (1・2 コース)  
等にチェックを入れてお申込みください。

募集定員：1 コースは 15 名程度、2 コースは 5 名程度を  
目安としています。

※キャンセルの場合は、当日連絡先までにご連絡下さい。  
※申込み多数の場合ご参加いただけない場合があります  
ので、お早めにお申込み下さい。

●問合わせ先：現地事務局 榎屋洋亮 (駒澤大学)

携帯 080-4340-3884

あるいは 03-3418-9671 (研究室)

Mail ysk0810@komazawa-u.ac.jp

■主催：文化経済学会<日本>

共催：駒澤大学 GMS 学部・大学院

# 文化経済学会<日本> 2015年度研究大会分科会 プログラム

分科会① 7月4日(土) 10:00～11:45 ※ただし、①-Dは11:10まで

## ①-A アートプロジェクト

座長 野田邦弘(鳥取大学)

論題	旧産炭地における芸術文化運動の意義と可能性に関する研究
発表者	國盛麻衣佳(福岡女学院大学)
討論者	増淵敏之(法政大学)

論題	アートプロジェクト構想におけるアートボランティア・リクルーティングの実態に関する考察
発表者	藤原旅人(九州大学大学院)
討論者	増淵敏之(法政大学)

論題	アートによる地域活性化が住民小中学生に及ぼす影響 —「瀬戸内国際芸術祭2010、2013」時系列意識調査報告—
発表者	山本暁美(首都大学東京大学院)
討論者	藤原恵洋(九州大学)

## ①-B クリエイティブ産業

座長 井口典夫(青山学院大学)

論題	2000年代におけるクリエイティブ産業の地域分布
発表者	朝田康禎(熊本大学)
討論者	井口典夫(青山学院大学)

論題	アート・プロデュース論の枠組みに関する考察—実践事例を通して—
発表者	境新一(成城大学)
討論者	河島伸子(同志社大学)

論題	マキノを核とした社会的ネットワークを通じて創発された映画都市京都: 1945年以前の日本映画産業における競争的構造
発表者	前田耕作(立命館大学)
討論者	河島伸子(同志社大学)

## ①-C 観光

座長 牧和生(青山学院大学)

論題	文化遺産と県観光政策
発表者	金武創(京都橋大学)
討論者	澤村明(新潟大学)

論題	観光における地域統計の課題と今後の方向性
発表者	山本史門(観光庁)
討論者	澤村明(新潟大学)

論題	観光映画の視点から読む中村登作品
発表者	須川まり(京都ノートルダム女子大学大学院)
討論者	金武創(京都橋大学)

## ①-D 教育・アウトリーチ

座長 新藤浩伸(東京大学)

論題	グローバル時代における美術館のレリバンズ:言語教育プログラムからの考察
発表者	木下綾(東海大学)
討論者	後藤和子(摂南大学)
論題	公共図書館におけるアウトリーチとしての学習プログラムの検討
発表者	岩井千華(九州大学大学院)
討論者	柳与志夫(東京文化資源会議)

## 分科会② 7月5日(日) 10:00~11:45

### ②-A 文化需要の実証分析

座長 阪本崇(京都橋大学)

論題	家庭環境が大学生の実演芸術鑑賞に及ぼす影響に関する分析
発表者	有馬昌宏(兵庫県立大学)
討論者	阪本崇(京都橋大学)
論題	コーホートからみたゲームの需要を規定する要因の分析
発表者	仲村敏隆(早稲田大学大学院)
討論者	勝浦正樹(名城大学)
論題	日本のオーケストラ楽団の鑑賞頻度に関する研究:ディリクレモデルの適用
発表者	涌田龍治(京都学園大学)
討論者	有馬昌宏(兵庫県立大学)

### ②-B 建築・デザイン

座長 川本直義((株)伊藤建築設計事務所)

論題	日本の戦前戦後を『汎美計画』で結んだ小池新二における産業デザイン振興と生活デザイン啓蒙—文化経済学的観点からの再評価—
発表者	藤原恵洋(九州大学)
討論者	本杉省三(日本大学)
論題	公共建築設計者選定の現状と課題
発表者	本杉省三(日本大学)
討論者	草加叔也((有)空間創造研究所)
論題	大規模な伝統木造建造物の材料となる長大高品質木材の経済的特性
発表者	峰尾恵人(京都大学大学院)
討論者	草加叔也((有)空間創造研究所)

## ②-C 文化支援

座長 宮崎刀史紀((公財)京都市音楽芸術文化振興財団)

論題	障害者の芸術表現の支援に関する一考察～最近の日本国内の動向から
発表者	川井田祥子(大阪市立大学)
討論者	野田邦弘(鳥取大学)
論題	「病院祭の実績と評価」—地域包括ケアシステム構築を見据えて—
発表者	今田彰((株)コンタクス)
討論者	野田邦弘(鳥取大学)
論題	市民文化活動支援のネットワークの歴史と実践: MailoutおよびCultureActionEuropeを対象に
発表者	新藤浩伸(東京大学)
討論者	川井田祥子(大阪市立大学)

## ②-D 人材育成と地域活性化

座長 佐々木亨(北海道大学)

論題	大学ミュージアムによる多様な創造環境の形成 —歴史都市の持続的発展における芸術系大学の社会的役割—
発表者	前田厚子(同志社大学大学院)
討論者	熊倉純子(東京藝術大学)
論題	地域連携と地方創生
発表者	松下愛(久留米大学)
討論者	小林真理(東京大学)
論題	創造的人材の移動と集積に関する考察
発表者	吉峰拓(九州大学大学院)
討論者	小林真理(東京大学)

## 分科会③ 7月5日(日) 13:30～15:15

### ③-A 文化経済学における新たなアプローチ

座長 有馬昌宏(兵庫県立大学)

論題	Consolidate The Relationship With Museum Visitors: Through Big-data Analysis with mathematical model based on Post-visit behavioral intention (英語発表)
発表者	姜有美(国立現代美術館)
討論者	八木匡(同志社大学)
論題	こだわり、共感およびホスピタリティと文化に関する認知科学的試論
発表者	牧和生(青山学院大学)
討論者	八木匡(同志社大学)
論題	地方劇場・音楽堂の潜在顧客向け便益の明確化とプライオリティ化に関する研究
発表者	佐野直哉(駐日英国大使館)
討論者	西郷浩(早稲田大学)

### ③-B まちづくり(1)

座長 曾田修司(跡見学園女子大学)

論題 非劇場型映画上映とまちづくり:神奈川県藤沢市と宮城県石巻市の事例を中心に

発表者 石垣尚志(東海大学)

討論者 藤原恵洋(九州大学)

論題 まちづくりとのつながりの側面からみた今日的“アーティスト像”  
—長久手市文化の家「おんぱく2014～音のテーマパーク」の事例から—

発表者 梶田美香(名古屋芸術大学)

討論者 石垣尚志(東海大学)

論題 市民討議のデザインにおける問題定義の効果—長久手市「文化の家」の事例から—

発表者 島田善規(名古屋大学大学院)

討論者 梶田美香(名古屋芸術大学)

### ③-C 伝統文化・芸能

座長 後藤和子(摂南大学)

論題 1964年東京オリンピックと1970年日本万国博覧会から2020年東京オリンピック・文化プログラムに繋ぐ新たな展開を考察する

発表者 中坪功雄((公社)全日本郷土芸能協会)

討論者 山田太門((一財)古曲会)

論題 文化資本としての食材の維持発展と地理的表示法の意義について～和菓子の材料を事例に～

発表者 森崎美穂子(大阪市立大学大学院)

討論者 徳永高志((特活)クオリティアンドコミュニケーションオブアーツ)

論題 花街芸能の伝承—京都祇園甲部と京都北野上七軒の教育現場を中心に

発表者 中原逸郎(京都楓錦会)

討論者 中坪功雄((公社)全日本郷土芸能協会)

### ③-D パフォーミングアーツ

座長 熊倉純子(東京藝術大学)

論題 オペラ・演奏会の上演回数と都市の階層性

発表者 大城純男(名古屋市役所)

討論者 勝浦正樹(名城大学)

論題 オーケストラの「地方公演」の類型とその位置付けに関する考察

発表者 佐藤良子(昭和音楽大学)

討論者 藤野一夫(神戸大学)

論題 演劇鑑賞を通じた価値評価の変化

発表者 鈴木星良(大阪大学大学院)

討論者 藤野一夫(神戸大学)

④-A アジアの文化政策

座長 佐々木雅幸(同志社大学)

論題	韓国における創造都市事業を基盤づけたパブリックアート政策の評価と課題
発表者	張慶彬(九州大学大学院)
討論者	萩原雅也(大阪樟蔭女子大学)
論題	文化創意産業を発展させる社会的基盤—香港文化創意園區の事例から—
発表者	馬麗娜(九州大学大学院)
討論者	萩原雅也(大阪樟蔭女子大学)
論題	現代シンガポールのコミュニティ(・アート)政策: 〈ハートランダー〉〈コスモポリタン〉の問題とネーション形成
発表者	南田明美(神戸大学大学院)
討論者	川崎賢一(駒澤大学)
論題	ベトナムにおける都市の創造性と持続的发展:中部フエ市の事例から
発表者	槌屋洋亮(駒澤大学)
討論者	佐々木雅幸(同志社大学)

④-B まちづくり(2)

座長 川井田祥子(大阪市立大学)

論題	アーティストと地域住民は同じ夢を見るか—アーティスト・イン・レジデンスと地域の関係
発表者	野田邦弘(鳥取大学)
討論者	友岡邦之(高崎経済大学)
論題	趣味縁やアート拠点の参入が都心の多様性を再生させる可能性 ～札幌と群馬県前橋市などの事例から～
発表者	加藤康子(北海道大学大学院)
討論者	友岡邦之(高崎経済大学)
論題	ゴーストタウンの未来を
発表者	阿思根(久留米大学)
討論者	太下義之(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))
論題	地域固有資源の発掘と活用に基づく創造的地域再生デザインワークショップの評価と課題—九州大学藤 惠洋研究室による九州大学社会連携事業「天草下浦フィールドワーク」の実践を通して—
発表者	高倉貴子(まちそだて交流機構日田ラボ)
共同発表者	藤原惠洋(九州大学)
討論者	太下義之(三菱UFJリサーチ&コンサルティング(株))

#### ④-C 文化政策

座長 米屋尚子((公社)日本芸能実演家団体協議会)

論題	地域における文化・芸術の政策とその運営に関する研究
発表者	林宰寛(名古屋大学大学院)
討論者	片山泰輔(静岡文化芸術大学)
論題	開かれた地域の文化資源としての“オープン・カルチュラル・リソースズ”
発表者	佐藤忠文(九州大学大学院)
討論者	片山泰輔(静岡文化芸術大学)
論題	わが国における対外文化政策のジレンマ—パリ日本館を事例に—
発表者	松本茂章(静岡文化芸術大学)
討論者	衛紀生(可児市文化創造センター)

#### ④-D 理論・思想

座長 伊藤裕夫

論題	マルクス経済学と文化・文化経済学
発表者	勝村務(北星学園大学)
討論者	中谷武雄
論題	ラスキンの建築論と自然観—パースの現象学を手がかりとして—
発表者	橋高彫斗(大阪大学大学院)
討論者	勝村務(北星学園大学)
論題	文化資本経営の本質
発表者	池上惇(市民大学院)
討論者	伊藤裕夫

(演題タイトルは変更される場合がございますので、ご了承ください)

<おことわり>

①-D「教育・アウトリーチ」分科会は発表辞退者が発生したため、2名の発表者による分科会となっておりますので、ご了承ください。

2015年  
9月9・10日  
(土・日)

第3回アジア・ワークショップは、京都府で開催されます

## 第3回アジア文化経済ワークショップ のご案内

2015年9月9日・10日に、京都で国際文化経済学会のアジアワークショップが開催される。第1回は2011年に京都で開催され、第2回は2013年に高松で、そして、今年はまだ、京都で開催される。毎回、発表者を公募し、ワークショップリーダーを招聘して、少人数で集中的な討議とエクスカージョンを行なっている。国際学会大会がない年に、アメリカとヨーロッパ、そしてアジアで地域ごとのワークショップを開催し、文化経済学に関する発表の機会を作り交流の場を持つという試みである。そのため、国際学会からも各ワークショップに対して多少の補助金がでる。

第2回のワークショップには、フィリピンや中国、台湾等からも参加があり、ワークショップの後には、ベネッセ・アートサイトをめぐり有意義な時間を過ごした。拙い発表でもワークショップリーダーのA. クラマー教授（現国際文化経済学会会長）が、それをどう発展させるべきか、論点は何か等、皆で議論できる素材を引き出してくれるため、有意義な議論ができる。今回もクラマー教授を招聘し、インスピレーションに富んだ2日間を創り出す予定である。

現在、発表を公募しており、多くの応募があることを期待したい。また、オブザーバーとしての参加も大歓迎である。参加費は資料代として2,000円、懇親会に参加を希望する場合には5,000円の実費が必要である。また、ワークショップ後、京都の文化シーンを視察する短いツアーも行う予定で、それも実費（入館料等）が必要となる。

ワークショップの発表公募に関する詳しい情報は、[http://www.jace.gr.jp/pdf/Call\\_for\\_Papers\\_AWS2015.pdf](http://www.jace.gr.jp/pdf/Call_for_Papers_AWS2015.pdf)にあります。

また、オブザーバー参加は、9月5日までに、[g018jace-asia.ws@ml.gakkai.ne.jp](mailto:g018jace-asia.ws@ml.gakkai.ne.jp)に参加したい旨、日本語で送ってください。オブザーバーとして参加するだけでも、海外での討論の仕方に触れ、国際学会等で発表する際に参考になると思います。多くの方の参加をお待ちしています。

また、お知り合いのアジアの研究者がおられましたら、ぜひ、ワークショップへの参加を呼びかけてください。

<文責・国際担当理事・後藤和子>

2015年  
10月24・25日  
(土・日)

2015年度秋の講演会は、新潟県新潟市の朱鷺メッセで開催されます

## 2015年度秋の講演会（新潟県） 開催日程等のご案内

今年の「秋の講演会」は、新潟で開催します。2010年に新潟産業大学に文化経済学科が設置されたのを記念して開催された柏崎大会以来の新潟開催となります。

2000年から始まり、今夏で第6回を迎える「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」。続いて新潟市で開催されるようになった「水と土の芸術祭」も視野に入れ、芸術祭終了後の秋に、これらの大規模アート・トリエンナーレが地域社会に及ぼしたインパクトについて振り返るシンポジウムと、現地見学会のエクスカージョンを企画しました。

内容は下記の予定です。

### 1. 日程

10/24 (土) 15～17時 シンポジウム「大地の芸術祭と人々」  
18～20時 懇親会

## 2. 会場

シンポジウム会場 朱鷺メッセ 中会議室（新潟市中央区万代島6-1）

## 3. シンポジウムの内容

### 登壇者

寺尾 仁（新潟大学工学部准教授）  
鷺見英司（新潟大学経済学部准教授）  
村木 薫（彫刻家、大地の芸術祭参加アーティスト）  
水落静子（うぶすなの家主宰）  
澤村 明（司会）

パネラーのうち、寺尾と鷺見は、昨年出版した澤村編著『アートは地域を変えたか 越後妻有大地の芸術祭の13年：2000-2012』（慶應義塾大学出版会）の共著者です。寺尾は大地の芸術祭の準備段階から開催まで、地元の人たちの反応を調べ、人々がどのように変容したかを考察するという、定性的な研究を行なっています。一方の鷺見は、ソーシャル・キャピタルを調べることで、地域社会の人々の「つながり」にどのような変化が起きたか、定量的な調査を行なっています。定性・定量両面から大規模芸術祭が地域社会に与えた影響を論じます。

参加アーティストの村木さんと、常設アートであり、食事処でもある「うぶすなの家」を切り盛りしている水落さんにも登壇していただきます。村木さんは2000年以来、松代の民家等の土壁を修復するプロジェクトを毎回手がけており、芸術祭の変化や住民の受容なども語っていただけると期待しています。

水落さんは「うぶすなの家」がある集落の農家のかたです。1924（大正13）年に建てられた萱葺農家を、2006年開催時に「空き家プロジェクト」の一つとして改修し、やきものミュージアム兼農家レストランにして、会期以外にも営業しています。水落さんはその主宰者で、自分たちの作った米や農産物を料理して提供し、地産地消の場所としています。

研究者の分析は的を射ているのでしょうか。会場が新潟市内であることから、新潟市域の「水と土の芸術祭」についても、それぞれの感想などを出し合い、大地の芸術祭との異同、相乗効果などを議論したいと考えています。

## 4. 懇親会

会場 Befco ばかうけ展望台（会場隣接の日航ホテル31F）

参加費 5,400円の予定

新潟市周辺を見渡せる展望台の食事コーナーで、バイキングの予定です。運が良ければ、佐渡島に落ちる夕陽が見られます。

## 5. エクスカージョン

新潟駅前を出発し、新潟市内の「水と土の芸術祭」関連施設を見た後、十日町地域の「大地の芸術祭」常設アートを巡ります。サプライズを考えています。

エクスカージョンは学生料金も検討しています。

なお新潟市は観光では有名ではありませんが、専属コンテンポラリーダンスユニット「ノイズム」を擁する新潟市民芸術文化会館「りゅーとびあ」、明治期の県議会庁舎「新潟県政記念館」、『文化経済学』第7巻第2号で紹介した旧齋藤家別邸、芸妓の歩く古町花街などが会場から歩いて回れます。

<文責・2015年度秋の講演会担当理事・澤村明>

# 私の文化経済学履歴書



## 私の文化経済学履歴書

伊藤 裕夫

「文化経済学」という言葉を初めて目にしたのは、確か1980年代の半ば頃、知人から勧められた、梅棹忠夫監修・総合研究開発機構編『文化経済学事始め』（学陽書房、1983）だったと記憶する。ただその時は「文化経済学」についてはほとんど関心がいらず、むしろ梅棹氏の文化行政論（第1章）や、当時注目を集めていたバツハホールなどの自治体の文化施設（第3章）について目を通したに過ぎない。

当時、筆者はある大手広告会社に勤務していたのだが、そうした筆者が自治体文化行政に関心を寄せていたのは、1978年、上司であった藤岡和賀夫氏が神奈川県「神奈川の文化を考える懇話会」の委員に選ばれ、その鞆持ちのような形で筆者も懇話会に毎回出席することになり、県の文化室の主幹であった森啓氏の知己を得たことに由来する。その森氏に声を掛けられ、自治体の文化行政担当者の勉強会（全国文化行政連絡会議）に参加したり、79年11月に横浜の国際会議場で開催された第1回全国文化行政シンポジウムを手伝ったりした。

その後、84～86年、やはり同じ藤岡氏が企画・プロデュースした、三井広報委員会による「クローズアップ・オブ・ジャパン」という、現代日本の文化を海外で紹介する文化事業を担当した。そのなかで、欧米の文化施設のスタッフとの交渉を通して、わが国の文化施設のあり方との落差に驚き、海外の文化政策について関心を持つようになった。そしてこの仕事で関わった音楽プロデューサーの栗山章氏に誘われて、87年3月に有楽町のマリオンで開かれた「アートの会計学的考察」というシンポジウム（山海塾の天児牛大氏や当時の世田谷美術館館長の大島清次氏による事前座談会が、『朝日ジャーナル』の87年3月20日号に掲載されている）を聴講して、日本の芸術文化振興について更に関心を深めるようになった。

ちょうどそうした折、勤務していた会社がシンクタンクを設立し出向者を募集したので、筆者も気になっ

ていた文化政策について研究したいと応募し、1年後の1988年春になりめでたく異動でき、そこで出会ったのが現在文化経済学会<日本>会長の河島伸子氏であった。

シンクタンクに移って最初に関わったのが、企業メセナ協議会の設立であった。そのきっかけとなったのは、88年11月に京都で開催された日仏文化サミット（フランス文化省と朝日新聞社の共催）で、この時も上司であった故天谷直弘所長の鞆持ちで同行したことが直接の契機になっている。この時のテーマは「文化と企業」で、日本からは故永井道雄氏（共同議長）、梅原猛氏、故加藤周一氏、磯崎新氏等の文化人の他に、企業人からは福原義春資生堂社長（当時、以下同じ）、故佐治敬三サントリー社長、故堤清二西武セゾングループ代表、故塚本幸一ワコール会長、稲森和夫京セラ会長が出席していた。3日にわたる会議の最後に、永井議長による総括の中でフランスの企業メセナ推進団体である ADMICAL にならって、日本にも同様の推進母体をつくろうとなり、この会議の事務局を担当していた朝日新聞論説委員の故根本長兵衛氏を、河島氏と一緒に手伝えることになった次第であった。

またこの間、企業メセナ協議会設立の準備と併行して、筆者等は海外の文化予算や文化に関わる税制などを調べていたが、この過程で、当時芸術文化振興基金創設の運動をしていた芸団協の大和滋氏と知り合うことになった。そして、1990年初頭、大和氏から、当時文化経済学会会長（国際）であった米国アクロン大学のヘンドン教授を招聘して「文化政策と舞台芸術の現状と未来」という会議を開催するが、勤務先のシンクタンクのホールをその会場として提供するよう求められ、共催者として3月20日に実施した。これを通して、初めて「文化経済学」という学問分野があり、どういうことが研究され、文化・芸術の発展にいかにかに寄与しているのかを知った（当会議の内容は、ご承知のように翌年芸団協から出版された、池上淳先生の編による『文化経済学の可能性』に収

録されている)。

履歴書ということで、文化経済学に出会うまでの個人的な歩みをくたぐだ書き連ねてきたが、ある面わが国に

おける文化経済学の前史とも重なる部分も少なくないと思考する次第である。



## 私の文化経済学履歴書

東京大学

小林 真理

私自身が文化と社会、とくに政策との関係に関心を抱くようになったのは、大学の学部4年生の時である。それはとても単純な理由であったけれども、現在においても同じ問題意識を持ち続けているのであるから、相当根深いものがそこで芽生えたということだと思う。当時は、文化と政策の問題や、文化と経済の問題を正面から扱う専攻や専修課程などはなく、既存の学問体系の中でどのようにアプローチをするかということしか考えられなかった。私自身は、文化や芸術の中身（今で言うところのコンテンツ）は大いに愛好してはいるものの、それが存在する社会との関係というものに関心があり、人文系的興味というよりは、社会科学系的な関心が強い。大学院にはひょんなことから政治学研究科の行政法専修という領域に進学したので、この問題にどのようにアプローチをすればよいかとても困っていた。しかし結論からいえば、国家や行政という対象を真正面から根源的に問い直す政治学研究科で自分の関心を貫いたことは意義があったと思っている。

行政法という専門領域は、行政法という法律があるわけではなく、簡単に言えば行政体の行為の性質やその規範を扱うものであり、この行政体というものと文化というものは決して相性がよいものとはいえない。むしろ水と油ともいえるような関係性といえ、これは行政体それ自体が有している性質に依拠するものである。当時、行政法の領域で文化的な分野を扱う重要なテーマは、近代国家の形成過程における（キリスト）教会と世俗の政治権力である国家の権限を扱う分野であり、日本での研究においては文化財保護に関していくつかの裁判事例が積み重ねられてきており、文化財に関する住民の権利の問題を先輩が扱っていた（それも後から知ったことである）。しかし、当時私の扱いたいと思っていた対象はこれらではなかった。

私にとって大きな転機になったのは、1987年にイギ

リスに出かけて John Pick の Arts Administration という書物と出会ったことと、1990年に紀伊國屋書店で見つけた首都圏文化行政研究会が編集した『新編文化行政の手引き～文化行政は人々の楽しみをつくることができるか？』（公人社）を見つけたことであった。副題にある「文化行政は人々の楽しみをつくることができるか？」という問いは、私の茫漠とした問題意識を的確に言い当てた問いかけであり、私は出版社に直接手紙を書いて、この研究会への参加を願い出た。博士課程の1年のときである。首都圏文化行政研究会は、当時先進的な地方自治体において取り組みが見られるようになってきた文化行政を担当している意識の高い職員を中心に進められてきた自主的な研究グループであり、芸能実演家団体協議会（芸団協）の事務局長さんや音楽評論家なども参加している領域横断的な研究会であった。地方自治体の職員はよりよい文化行政のあり方を探求し、開発していたし、芸団協は、芸能実演家の権利拡充を求めて文化政策の研究を進めていた。ほぼ毎月行われる研究会に参加させていただき行政職員や芸能実演家の切実な問題意識に直面すればするほど、現場の経験や知識のない自分の立ち位置の難しさには大いに悩まされた。文化行政も文化政策の拡充も当事者たちにとっては、研究の対象というよりは、「こうあるべき」という運動そのものであった。芸団協の事務局長さんから、文化経済学に関して学会を創設するという話を聞いたとき、私自身は経済学とは無縁であったが、光明を見いだせたような気がした。多様な人たちが集う領域横断的な研究会が、より規模を拡大して「学会として」展開されることは、アカデミックな問題意識を持つ人たちに出会い、そのことを研究として追究することを許す可能性を予感したのだと思う。私自身はどうしても経済学ではないが、それでも文化経済学という支えはこの道を歩んでいく上で重要な意味を持っていた。

## 調査研究成果の交差点

今回の調査研究成果の交差点は、以下5件の調査報告をご紹介します。

- (1) 「文化芸術の振興に関する基本的な方針」第4次基本答申（平成27年5月）
  - (2) 調査・発行：文化庁
  - (3) [http://www.bunka.go.jp/koho\\_hodo\\_oshirase/hodohappyo/pdf/2015052201.pdf](http://www.bunka.go.jp/koho_hodo_oshirase/hodohappyo/pdf/2015052201.pdf)
  - (4) 概要：2020年度までの約6年間を対象に、文化芸術施策の総合的な推進を図るために策定された。第3次方針策定時（平成23年2月）以後の諸情勢の変化をふまえた文化政策の方針とともに、文化芸術振興のために5つの重点戦略を定めている。また、日本を「文化芸術立国」とすべく、成果目標と成果指標も提示している。
- 
- (1) 東京文化ビジョン（平成27年3月）
  - (2) 調査・発行：東京都
  - (3) <http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/bunka/jyorei/vision.html>  
（日本語：概要版&本体）  
<http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/lang/en/vision.html>  
（英語：本体のみ）
  - (4) 概要：文化から東京の未来を切り拓くべく、2015年から2025年までの約10年間でターゲットに策定された。世界に提示する8つの文化戦略と、それぞれが目指す方向性、さらに文化ビジョンを実現するための10の主要プロジェクトが明示されている。
- 
- (1) 「日本の博物館総合調査研究」論文集（平成27年1月）及び「博物館総合調査」基本データ集（平成27年4月）
  - (2) 研究代表・篠原徹（滋賀県立琵琶湖博物館長） \* 日本学術振興会科学研究費基盤研究B成果報告書
  - (3) <http://www.museum-census.jp/report2014/>  
（論文集）  
<http://www.museum-census.jp/data2014/>  
（基本データ集）
  - (4) 概要：全国4,045館を対象に平成25年12月1日を基準日として調査を実施。従来の白書的性格の調査とは異なり、今後の博物館の教育や経営の在り方にも資することができるようにヒアリング調査も行い、その分析結果も掲載している。
- 
- (1) 「平成26年度地域の公立文化施設実態調査」報告書（平成27年4月）
  - (2) 一般財団法人地域創造
  - (3) <http://www.jafra.or.jp/j/library/investigation/026/index.php>
  - (4) 概要：全国の地方公共団体と公立文化施設を対象に、運営体制や自主事業、アウトリーチの状況などを調査。また、地方公共団体での文化振興条例の設置や指定管理者制度の導入状況、文化政策の課題などに関する結果も掲載している。
- 
- (1) 文化芸術創造都市事業の推進に関する自治体アンケート結果報告書（平成27年3月）
  - (2) 調査・発行：一般社団法人ノオト（平成26年度文化庁委託事業、協力：NPO法人都市文化創造機構）

(3) [http://ccn-j.net/activity/pdf/H26\\_report01.pdf](http://ccn-j.net/activity/pdf/H26_report01.pdf)

(4) 概要：自治体における文化芸術創造都市事業の推進状況の把握とともに、これから文化芸術創造都市事業を推進しようとする自治体に対する情報提供を目的にアンケート調査を実施し、創造都市ネットワーク日本 (CCNJ) 等の取組を通じて自治体相互の議論につながることを企図して分析を行ったものである。

凡例

(1) 報告書名とその発行年月日、(2) 報告書を発行した組織、(3) 報告書のダウンロードができる URL、または報告書 (冊子) 入手のための連絡先 (メールアドレスや電話番号)、(4) 報告書の概要

## 学会誌「文化経済学」編集委員会より

### 1. 論文の投稿について

「文化経済学」は、年2回発行され、年2回の区切りで投稿論文を受け付けています。

		第13巻第1号 (通巻第40号)	第13巻第2号 (通巻第41号)
締切	論文エントリー	2015年7月末	2016年1月末
	論文提出	2015年9月末	2016年3月末

### <応募・掲載条件>

論文の応募 (エントリー) は本学会員に限られます。学会費が未納の方は論文のエントリーをすることはできません。掲載には、査読委員の審査を経て掲載が妥当と認められること、掲載料をお支払いいただくことが条件となっています。(2ページ毎に6,000円、ただし、50部の抜き刷りを配布いたします。なお、金額は今後、改定の可能性もございます)

### <応募方法>

FAX、email、郵送のいずれかで、下記7点を事務局 (本誌末の連絡先) までお送り下さい。

①応募日付 ②応募者名 ③会員番号 ④所属 ⑤タイトル ⑥論文要旨 (400字程度) ⑦応募者連絡先

### <応募にあたっての留意事項>

- ・過去の研究への言及と、従来の研究の流れの中での自己の研究の位置づけ、または独自性が明確になっていること。
- ・論証や実証に必要な文献・資料の参照が行われていること。
- ・歴史的事実等については、事実が正確であるかどうかの確認を行っていること。
- ・応募する論文は未公表のものであること。また、他の学術誌等への投稿の予定がないものに限る。
- ・英文要旨については必ずネイティブ・チェックを受けること。
- ・提出先・提出方法・原稿の形式などの詳細は、文化経済学会のウェブサイトを必ず参照のこと。

<http://www.jace.gr.jp/bosyu.html>

### 2. 学会誌における書評について

学会誌の書評で取り上げて欲しい本がありましたら、メールにて書名をお知らせください (宛先: ktomooka@tcue.ac.jp)。また、書評のための献本をしていただける場合は、友岡邦之編集長まで送付をお願いいたします (宛先: 〒370-0801 高崎市上並榎町1300 高崎経済大学地域政策学部 友岡邦之宛。なお、事務局宛の献本は受け付けておりませんので、ご注意ください)。その後編集委員会で検討し、取り上げるべき本と判断されれば、評者を選定の上、学会誌に書評を掲載します。

## 理事会報告

### 文化経済学会<日本>第XII期第4回理事会

日時：2015年3月30日（土） 15:00 - 16:30

場所：名城大学 名駅サテライト 多目的室

出席者：河島会長、勝浦副会長、八木理事長、有馬、衛、  
太下、川井田、川崎、後藤、阪本、佐々木（亨）、  
澤村、清水、野田、萩原、藤野、増淵各理事

委任状提出者（理事）：14名

欠席者：2名（監事）

#### <第1号議案> 会員の入退会について

八木理事長より、入会申込者12名の入会、退会申込者6名の退会が承認された。3年以上の会費滞納者数について報告があり、4年以上の滞納者については3月末に退会とすることが承認された。

#### <第2号議案> 2015年度研究大会（駒澤大学）について

川崎理事より、プログラム全体構成、使用会場とアクセス、エクスカーションについての報告があり、プログラム委員長の佐々木（亨）理事から特別セッションとシンポジウムについて前回理事会以降の変更点についての報告が行われた。

さらに、事務局より分科会の座長、発表者、討論者の報告があり、協議の結果承認された。

#### <第3号議案> 2015年度秋の講演会について

澤村理事より、日程、シンポジウム・エクスカーション、収支予算について報告があった。新潟市観光コンベンション協会からの補助を受けるために、県外参加者数について条件が付されていることが報告され、協議の結果、学生からの参加も促進できるようさらに広報を進めることになった。

#### <第4号議案> 2016年度研究大会・秋の講演会について

八木理事長より、秋の講演会について、本杉理事から、「公立文化施設は変わるか？」をテーマとし、内容・開催地について3案の提案があったことが報告され、協議が行われた。テーマ、議論のポイント、開催地・施設について意見交換が行われ、その結果を本杉理事に伝え、引き続き検討を進めてもらうこととなった。

#### <第5号議案> 学会会則改定について

#### <第6号議案> 選挙細則改定について

八木理事長より、前回の理事会決定に沿った会則及

び役員選挙細則の改定案の提案があった。協議の結果、会則改定案の理事及び監事の被選挙権者について「個人会員および団体会員」とする修正案が出され、承認された。

#### <第7号議案> 委員会等報告

##### ・Webに関して

事務局より、リニューアルされたホームページが公開される予定であるとの報告があった。

##### ・国際委員会

勝浦副会長より、9月9日・10日にクラマー教授を招聘して同志社大学との共催により開催するアジアワークショップの詳細についてwebで公開されるとの報告があった。後藤理事、阪本関西部会長からクラマー教授との研究会を検討しているとの報告があった。

##### ・学会誌編集委員会

八木理事長より、執筆要項に著作権譲渡の規定を明記するとの報告があった。清水理事より、レポジトリについては出版社の著作権とは別扱いとする動きが広がっているとの意見があり、さらに情報を収集していくこととなった。

#### <第8号議案> 2014年度事業報告について

八木理事長より、事業報告がまとまったことが報告され、承認された。

#### <第9号議案> 2015年度事業計画について

八木理事長より、事業計画の報告があり、協議の結果、一部表現を修正の上、承認された。20周年の記念出版の進捗状況について編集担当（河島会長）より報告があった。

#### <第10号議案> その他

・衛理事より、芸術団体、実務者、学界による意見交換、関係づくりの機会を持ってないか模索しており、世界劇場会議のプレ会議として来年度からラウンドテーブルの開催を検討しているとの報告があり、意見交換の結果、当学会も開催に協力していくことが承認された。

・八木理事長より、「世界劇場会議 名古屋フォーラム 2015」の後援依頼が報告され、承認された。

・前回理事会から引き続き、学会による顕彰制度についての懇談が行われ、推薦方法、年齢制限、回数制限、選考基準とプロセス、奨励と貢献の比重、学会誌論

文への限定の是非等について意見交換の結果、今後の検討について三役に一任することが承認された。

次回理事会を7月4日(土) 11:50から駒澤大学で開催することが確認された。

## 入退会情報(敬称略)

●第Ⅶ期第4回理事会(2015.3.30)にて承認

### 入会

江連良介(北海道大学)、大城純男(名古屋市役所)、菊田篤((有)PHI)、佐野直哉(駐日英国大使館)、須賀由紀子(実践女子大学)、鈴木秀顕(ノースアジア大学)、泰井良(静岡県立美術館)、松下愛(久留米大学)、三宅美緒(北海道大学大学院)、宮田荘平(経済産業省)、山本暁美(首都大学東京大学院)、吉峰拡(九州大学)

### 退会

6名

なお、このほかに、4年以上の会費滞納者で退会届未提出の29名について、会則により会員資格を喪失することが承認された。

季刊「文化経済学会」 No. 91  
2015年6月9日発行  
ISSN 0918-3787

発行 文化経済学会<日本>  
発行人 河島 伸子  
編集人 川井田 祥子

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨 1-24-1 第2ユニオンビル 4F  
(株)ガリレオ 学会業務情報化センター

E-mail : g018jace-mng@ml.gakkai.ne.jp

URL : <http://www.jace.gr.jp/>

© 2015, Japan Association for Cultural Economics